

○米価下落により米の収益性が大幅に低下している。また、ブランド米の産地間競争が一層激化してきている。

○岩手県のオリジナル水稲新品種「銀河のしずく」、「金色の風」が育成され、速やかな普及拡大により県産米の評価向上、農家の所得向上が求められている。

○このため、関係機関・団体等と連携し、新品種モデル圃の設置や研修会の開催を通じて、良食味・高品質米栽培技術の確立や、新品種PRに取り組む。

具体的な成果

普及指導員の活動

1. 県オリジナル水稲新品種の早期普及拡大

■県農業研究センターが開発した水稲新品種及び有望系統の早期普及拡大。

①銀河のしずく(中生)

H28から一般栽培開始。県中部～沿岸南部(JA新しいわて、JAいわて中央、JAいわて花巻、JAおおふなど)

作付Oha → (H29)一般栽培815ha

②金色の風(晩生)

H29から一般栽培開始。県南部(JA江刺、JA岩手ふるさと、JAいわて平泉)

作付Oha → (H29)一般栽培109ha



2. 良食味・高品質米栽培技術の確立定着

■安定栽培適地を明らかにし、良食味・高品質米栽培技術を確立。

・品質の向上：一等米比率

(H29)金色の風 98.2%、銀河のしずく94.2%

・食味評価の向上

3. 新品種のPR等による知名度の向上

■生産者や消費者へ新品種の良さをPRし、生産意欲・購買意欲を醸成。

・新品種が新たなブランド米として定着

・知事PR、各種コンテスト入賞

■適地把握と作付誘導(H27～30)

・モデル展示圃設置(H27～30)

・生育調査に基づく「栽培マニュアル」作成(H27)、改訂(H28～)

・栽培マニュアルに基づく指導及び検証(H28～30)

・衛星画像を活用したリモートセンシング技術の確立(H30～)



■安定栽培技術の向上(H27～H30)

・栽培研究会(県・地域)設置(H27～)

■新品種PRで知名度向上(H28～30)

・生産者・消費者向けPR支援

・本庁県産米戦略室とのPR活動等

・銀河のしずく頂上コンテスト開催(H29～)



普及指導員だからできたこと

■農業革新支援センターのコーディネートにより、栽培農家、研究機関、関係機関が参画する研究会の円滑な連携が実現し、新品種の早期普及・定着ができた。

■地域普及センターによる実証圃設置や栽培管理指導などの緻密な現地活動により、新品種の早期普及・定着ができた。

オリジナル水稲新品種の普及拡大

活動期間：平成27～30年度

1. 取組の背景

米価下落により米の収益性が大幅に低下している。また、ブランド米による産地間競争が激化しており、需要に対応した売れる県産米の生産拡大がさらに必要となっている。

県オリジナル水稲品種「^{ぎんが}銀河のしずく」、「^{こんじき}金色の風(旧系統名：岩手118号)」が育成され、ブランド化による県産米全体の評価向上が期待される中、新品種を速やかに普及定着が求められている。

2. 活動内容（詳細）

(1) 新品種における良食味・高品質米栽培技術の確立

ア 安定栽培適地の把握と作付誘導【対象：展示圃農家】

本年度から一般栽培がスタートし、作付目標面積100haに対して109haの作付であった。栽培適地にはモデル展示圃14ヵ所、栽培適地外には栽培適地実証圃1ヵ所を設置し、生育調査を通じて地域適応性や品種の生育特性把握に努めた。

イ 良食味・高品質米の安定栽培技術指導【対象：研究会】

平成29年2月に栽培適地である3JA管内に3つの地域栽培研究会が設立され、県全体の栽培指導や情報共有のために同3月、岩手県「金色の風」栽培研究会が設立された（事務局として県域普及グループ参画）。

県研究会活動として、平成28年度作成の『「金色の風」高品質・良食味米栽培マニュアル』に基づき、栽培研究会を計4回（6、7、9、12月）開催し、栽培指導を行った。

ウ 研究会活動を通じた安定栽培技術向上【対象：研究会】

マニュアルに示した品質目標（整粒歩合80%以上、玄米タンパク質含有率7.5%以下（玄米水分0%換算））を達成するために、研究会活動を通して活動した。

(2) 新品種のPR等による知名度の向上

ア 県産米戦略室との連携のもと、達増知事による「金色の風」の田植（5/8、約70名参加）、稲刈り式（9/28、約50名参加）に参加し、生産者及び消費者へのPR活動を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 新品種における良食味・高品質米栽培技術の確立

ア モデル展示圃および栽培適地実証圃設置

4 市町15ヵ所に設置し、各地域研究会事務局（JA職員）らが調査を実施した。その調査結果を栽培研究会で共有し、タイムリーな栽培指導が実施された。

イ 栽培マニュアルの改訂

農業研究センター試験研究成果は示されなかったが、モデル圃場等のデータをもとに改訂した。改訂のポイントとしては、品質維持、収量低減を防ぐための倒伏対策があげられ、栽植密度や水管理に関する部分を改訂した。

ウ 品質目標の達成

マニュアルに示した品質目標をもとに「農産物検査結果が一等米であること、かつ玄米タンパク質含有率7.5%以下（玄米水分0%換算）であること」という出荷基準を設定した。平成29年産米一等米比率は98.2%であり、ほぼすべてが出荷基準をクリアした。また、一般栽培作付面積では109haまで普及している。

(2) 新品種のPR等による知名度の向上

ア 知事によるPR活動、各種コンテストでの入賞（2017米のヒット甲子園の最終選考9銘柄に選出（主催：日経トレンドィ））などにより、生産者および消費者に広く認知された。

イ 品質目標が達成されたことにより、初年度の流通量を確保できたことが知名度の向上につながった。



第4回岩手県「金色の風」栽培研究会
(H29.12.19 JA岩手ふるさと本所 会議室)



「金色の風」知事稲刈り式
(H29.9.27 JAいわて平泉農業倉庫)

4. 農家等からの評価・コメント

（岩手県金色の風栽培研究会会長（モデル展示圃担当農家）A氏）

特Aを取れず、生産者としては大変残念。8月の日照不足など天候不順で栽培が大変な年だったが、関係機関と連携し、栽培方法などをもう一度確認しながら、今年も一生懸命作っていく。

5. 普及指導員のコメント

（中央農業改良普及センター県域普及グループ・上席農業普及員・中西商量）

特A取得できる食味の実力を持つ期待の新品種であり、今年度はまず良食味生産に主眼を置いて活動した。この品種のストロングポイントは、良食味である。栽培エリアを限定して、栽培マニュアルに基づく栽培管理により、長所を最大限に活かせるように推進していきたい。

6. 現状・今後の展開等

平成29年度から「金色の風」、「銀河のしずく」が本格栽培され、実需から高評価を得ている。研究会活動を通じて、ブランド化による県産米全体の評価向上のために普及活動を進めていく。